

やさしいOHSAS18001 労働安全衛生
マネジメントシステム規格解釈講座

目次

前書き	1
1.導入のための基礎知識.....	2
1-1 OHSAS って何?	2
1-2 OH&S-MS の必要性	3
1-3 OHSAS 取得のための審査について.....	5
1-4 OHSAS 取得のコストはどれくらい?	6
1-5 OHSAS 取得に向けての組織作り	9
1-6 労働安全衛生管理責任者は どんな人がいいの?	11
2.現状調査	13
2-1 職場の危険源の現状調査.....	13
2-2 関連法規の調査	16
2-3 関連法規の調査(その2)	18
2-4 不安全・不衛生の状況調査	20
2-5 現状調査に関する OHSAS18001 規格の概要解説	21
3.OHSAS18001 規格の解説.....	24
3-1 OH&S-MS で使われる用語の定義.....	24
3-2 [4.1] 一般要求事項.....	26
3-3 [4.2] 労働安全衛生方針	28
3-4 [4.3.1] 危険源の特定・リスクアセスメント・リスク管理の計画	29
3-5 [4.3.2] 法的及びその他の要求事項.....	31
3-6 [4.3.3] 目 標.....	33
3-7 [4.3.4] 労働安全衛生マネジメントプログラム.....	34
3-8 4.4 実施及び運用 [4.4.1] 体制及び責任	36
3-9 4.4 実施及び運用 [4.4.2] 訓練、自覚及び能力.....	37
3-10 4.4 実施及び運用 [4.4.3] 協議及びコミュニケーション	38
3-11 4.4 実施及び運用 [4.4.4] 文書化	39
3-12 4.4 実施及び運用 [4.4.5] 文書及びデータ管理.....	41
3-13 4.4 実施及び運用 [4.4.6] 運用管理.....	42
3-14 4.4 実施及び運用 [4.4.7] 緊急事態への準備及び対応	43
3-15 4.5 “点検及び是正措置” [4.5.1] パフォーマンスの測定とモニタリング.....	45
3-16 4.5 “点検及び是正措置” [4.5.2] 事故、事故誘因、不適合、並びに是正及び 予防措置.....	47
3-17 4.5 “点検及び是正措置” [4.5.3] 記録及び記録の管理	48

最近の事故・事件に学ぶ.....	50
3-18 4.5 “点検及び是正措置”[4.5.4] 監 査.....	52
3-19 4.6 “経営層による見直し”	54
4.OHSAS18001 に関するいろいろ	56
4-01 “OHSAS18001 導入のメリット”	56
4-02 “OHSAS18001 4.3.2 に関する質問2題”	59
4-03 “OHSAS18001 4.3.2 に関する質問”	61
4-04 “OHSAS18001 4.3.2 に関する質問”	62
4-05 “OHSAS18001「4.3.1」に関して”	63

前書き

各種の製造業において ISO9000 シリーズ、14000 シリーズに続き第三のマネジメントシステムとして OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム〈以下 OH&S-MS と略す〉）が注目されています。

本テキストは、OH&S-MS の導入を検討しておられる方々向けに「導入から構築・審査受け～維持管理まで」をやさしく解説するものです。

1.導入のための基礎知識

1-1 OHSAS って何？

イギリスでは、1996年に「労働安全衛生マネジメントシステムの指針」(イギリス規格協会 BS8800 規格)が、労働安全衛生法に基づいて発行された。時を同じくしてヨーロッパを中心に同様な規格が発行されました。ISO(国際標準化機構)においても規格化が検討されたが、「時期尚早」等で足並みが揃わず見送られた。

一方、OH&S-MSについてもISO9000(品質)、14000(環境)と同様に第三者機関による審査を受けて認証を得たいと考える企業が増えてきた。

ところが、ISO9000、14000の様な登録審査のための規格が無いので、各審査機関はBS8800等をベースにして独自に自主規格を定めて、それに適合しているかどうかの審査を行うため、国際的な統一性に欠けるものであった。

そこでイギリス規格協会を初め複数の国の標準化機関や国際的に活動している審査登録機関が集まって(日本から日本規格協会ほか複数の機関が参加)審査登録に使用できる規格として作成されたものがOHSAS規格である。

OHSASはOccupational Health and Safety Assessmentの略で直訳すれば「職業上の健康と安全に関する評価シリーズ」と云うようなことになる。

OHSAS18001(1999年4月発行)「労働安全衛生マネジメント システム - 仕様」は、安全衛生の活動に経営管理の基本である「Plan、Do、Check、Action <方針・計画、実施及び運用、点検及び是正処置、改善・見直し>のサイクル」モデルを採用してISO9000、14000との並立性を意識して規格化されており、規格の章立てはISO14001と同じ構成になっている。また要求事項も類似である。

OHSAS18002(2000年2月発行)「労働安全衛生マネジメント システム - OHSAS 18001の実施のための指針」は、18001の各要求事項を詳細に説明しており、OH&S-MS構築のために有用な規格である。

まとめ

- 1) OHSAS規格はISOとは異なるが複数の国の機関が参加して決められたものであり、一種の国際規格である。
- 2) OHSAS18001規格は章立て、要求事項がISO14001と類似であり、構築と審査のための仕様規格である。

労働安全衛生の活動をPDCA手法で管理により、継続的に改善・向上させ、労働災害の低減をねらったものである。

1-2 OH&S-MS の必要性

皆さんは、ほとんど全ての製造現場、工事現場において「安全第一」の表示を目にしておられるであろう。これは、何の為であろうか？ たとえ軽度であろうと、一旦災害が起これば、被災者本人・家族の受ける肉体的・精神的・経済的な損失は計り知れない。また、企業にとっても補償金、作業日程の遅れ、保険料増加、社会的なイメージダウンなどなど、直接的・間接的な損失は莫大なものとなる。すなわち「安全は全てに優先する」だけの価値があることを端的に表現しているのである。

日本における労働災害死亡者は、1960年代には6000人を超えていた。1972年に「労働安全衛生法」が制定されたのを契機に激減し、80年代には2000人台になったものの微減で、98年になってようやく2,000人を下回った。この間、種種の安全管理活動が展開されてきたが、未だに毎年多くの犠牲者が発生しているのが実情である。

下記はイギリスと日本の労働災害死亡者数の比較である。

	1994年		1996年
	労災死亡者	就業者	労災死亡者
イギリス	245人	2,592万人	261人
日本	2,301人	6,030万人	2,363人

日本の就業者が2.3倍であるのに、死亡者は9倍もある。

なぜイギリスでは労災死亡者が少ないのであろうか？

少ない理由の一つとして各国が注目したのが、イギリスのマネジメント手法である。

その基本的な思想は以下の通りです。

各組織（企業・事業所など）が自主的に、本当に重大な問題は何か？ を見極めて集中的に取り組む。

トップから一人ひとりの作業者にいたるまでがリスクの削減に向けて、各自の目標と責任を明確にして取り組む。

組織の規模に合った活動で、継続的に推進する。などであり、この考えは BS8800、OHSAS18000 に取り入れられている。

日本においても 1999（平成 11）年 4 月に労働省告示 53 号「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」が発表され、全ての事業所に適用する旨が公表されている。

この指針はわが国の従来からの安全衛生活動とイギリス BS8800 をベースに作成されたといわれており、内容的に OHSAS と矛盾するものではない。

以上に示したように、従来からの安全衛生活動をさらに前進させるために、何としても取り組まねばならないのが OH&S-MS であり、この活動への取り組み状況が OHSAS18001 規格に適合しておれば、おのずと認証は取得できるのである。

まとめ

- 1) OH&S-MS は、危険の低減、法の遵守等の効果があり取り組むことは、従業員・企業の双方に有益である。
 - 2) OH&S-MS は義務的なものではなく、自主的な活動であるが、労働省告示 53 号と矛盾するものではない。
 - 3) OH&S-MS は従来の活動を補う手法であり、イギリスの実績からも効果に期待が持てる。
- 認証取得を公表し、企業のイメージアップが可能である。

衛生管理コラム

[男性の喫煙率]

男性の喫煙率がようやく 50%を切りました。

(日本たばこ産業 2002.10.24 発表)

たばこはガンを始め諸病の原因あるいは悪化の要因であるにも関わらず、なぜ止められないのでしょうか？

- ・ お国のために税金を払っている
- ・ 自分の寿命だ。誰にも迷惑をかけていない

と、言っているあなた。

* たばこ税収よりもたばこが原因の病気に使う健康保険代の方が多い。

* 吸っている本人よりも、周りにいる人の方が悪影響を受けている。

ことを今一度考えて、自分のため、家族のために、今から節煙しませんか。

1-3 OHSAS 取得のための審査について

1-2 で述べたように、労働衛生による災害は、労働者の生命と健康を損なうばかりでなく、場合によっては経営者の責任追及、社会的なイメージダウン等企業にとっても大きな損失である。それを少しでも回避するための手段の一つが OH&S-MS である。

OHSAS18001 規格に基づいて、マネジメントシステムを構築し、「従業員・関係者のリスクの最小化」「将来発生するかもしれないリスクの回避」などを目的とした活動がスタートすれば、組織内の活動を確実なものにする共に、社会へアピールする手段として、この活動を第三者に評価（審査）してもらうことを希望する企業が出てくるのは当然である。

OHSAS18001 は 1-1 で述べたように、ISO 規格では無いものの、複数の国の標準化機関・審査機関が集まって作成した規格であり、現時点では OH&S-MS の審査に利用できる唯一の国際規格といえる。

しかし、日本における OHSAS には未だ、ISO9000、14000 の審査登録機関を JAB（日本適合性認定協会）が認定するような仕組みがないため、OHSAS18001 の審査は、既存の認定機関が品質・環境審査の延長として実施している。従って審査結果は「適合証明書」「審査証明書」等と名付けられ、証明書に記載があるのは審査機関名のみで、ISO9000、14000 の登録証にある JAB マークに相当する認定機関名は無い。

審査員資格についても現時点で、日本には評価登録機関が無いため、イギリス、オーストラリア・ニュージーランド等の外国認定機関へ登録している人、審査機関独自で認定している人などさまざまであるが、どちらの審査員も労働安全衛生およびマネジメントシステムに関する知識を有した人を認定しており、審査に支障はない。

審査は OHSAS 単独、ISO9000 または 14000 との複合、三つのシステムを統合したトリプルいずれも可能である。

< 詳細は要求事項の解釈で説明する >

まとめ

- 1) OHSAS18001 は審査に利用できる唯一の国際規格である。
- 2) 審査登録機関を認定するような仕組みがないため、審査は、既存の認定機関が品質・環境審査の延長として実施している。
- 3) 審査は OHSAS 単独、品質・環境との統合いずれも可能。